

現代の図書館 編集方針

2005年12月 現代の図書館編集委員会

1. 編集方針

本誌は、広く世界へ目を向け、国内外における図書館や情報提供機関等が直面する実践的課題を踏まえ、図書館および情報提供機関等の発展に貢献する論考を掲載する。

日本図書館協会が発行する季刊の「理論誌」として、理論的なテーマやある程度の分量を要するテーマを積極的に取り上げる。

2. 想定読者

- ・日本図書館協会会員
- ・公共図書館の職員および関係者
- ・大学図書館の職員および関係者
- ・学校図書館の職員および関係者
- ・専門図書館の職員および関係者
- ・図書館情報学および関連分野の研究者
- ・出版情報産業など関連業界の関係者
- ・その他図書館および図書館情報学に関心をもつ者
- ・その他の図書館関係者、図書館に関心をもつ者

3. 想定記事内容

- ・現代の図書館界の展望を示す動向記事
- ・我が国の図書館の参考に資する海外論文の紹介および翻訳
- ・図書館における諸活動の実際の記録
- ・図書館に関する調査・研究の成果
- ・日本図書館協会が関係する研究会・事業の成果
- ・情報サービス・出版など関連分野の注目すべきトピック

4. 誌面構成

①「一般記事」

近年話題となっているテーマの中から、注目すべきものを取り上げ「一般記事」とする。記事内容については、主として上記3. を想定する。

②「特集」

近年話題となっているテーマの中から、多面的に掘り下げられるテーマがあれば、「特集」として取り上げる。特集を構成する記事数は、5本程度を目安とする。2, 3本程度なら、「小特集」として構成してもよい。「特集」は、当該テーマを様々な面から理解できるよう、総論および各論から構成する。場合によっては、1頁ほどの前文（「特集にあたって」）を総論の代わりと

してもよい。

③「シリーズ記事」

近年話題となっているテーマの中で、継続的な掲載が適当なテーマがあれば、「シリーズ記事」として連載する。

5. 原稿種別

〈依頼原稿〉

上記4. ①～③の記事については、編集委員会が執筆候補者を選定し、その候補者に対して編集委員および編集事務局が執筆を打診する。承諾が得られれば、編集事務局が書面をもって正式な執筆依頼を行う。

依頼原稿であっても、提出された原稿の掲載の可否については、編集委員会の審議を経て決定する。その際に、原稿の一部修正、書き直しを求められることがある。

依頼する原稿はいずれも未発表のものとする。原稿分量は、図・表・写真等を含め刷り上り6頁程度（1頁＝22字×80行）が望ましい。なお、執筆者には原稿執筆料を支払う。

〈投稿原稿〉

本誌を日本図書館協会会員が行った研究成果の発表の場として活用すべく、会員からの投稿を積極的に受け付ける。投稿は常時受け付け、誌面構成においては、「①一般記事」と同様に扱う。投稿原稿の掲載の可否は、編集委員会の審議を経て決定する。その際、原稿の一部修正、書き直しを求められることがある。

投稿原稿は必ず未発表論文とし、理論誌という性格を踏まえ、記述にあたっては可能な限りデータや客観的事実を用いることを求める。原則としてエッセーや感想文的な原稿は掲載しない。原稿分量は、図・表・写真等を含め刷り上り6頁程度（1頁＝22字×80行）が望ましい。なお、執筆者には原稿執筆料を支払う。